

令和元年度第1回世界農業遺産等専門家会議
みなべ・田辺地域における更なる保全・活用に向けた助言

- 1 様々なトピックを網羅している点や、数値を用いて検証している点については、高く評価する。一方で、長期的なビジョンや目指すべき姿がはっきりしていない点については、更なる検討が必要である。特に、SDGsの考え方も踏まえ、環境、経済、社会の統合的な向上を目指すことに、それぞれの活動のどの要素が、こういった形で貢献するかを整理してはどうか。

また、みなべ・田辺地域は、環境省が実施する「地域循環共生圏」の対象地域にも選定されているが、この考え方も踏まえ、環境、経済、社会の統合的な発展を地域レベルでどのように位置付けていくかを考えながら取り組んでいただきたい。

- 2 数値を用いて検証することは重要であるが、中には、質的に向上したことで一段高いレベルに進んでいる一方、見かけ上の数値は低下している等の説明があるため、誤解を招かないように数値目標を見直し、今後の地域のあるべき姿を示す有効な指標とするよう、改善していただきたい。

また、学術的な裏付けを持った択伐の効果検証や、マップによる見える化を行うなど、説明に根拠を持たせるようにすることが望ましい。

- 3 食料としての梅を災害時や備蓄用に地域外へ支援する交流活動については、非常に高く評価する。これまで、農業遺産では地域内のレジリエンスを高めることのみが着目されていたが、この活動は、地域外のレジリエンスも高めるという新しい意義を見出したものであり、今後とも継続していただきたい。

- 4 都市との交流や国際的な交流について、多くの人を訪れることだけを目指すのではなく、交流の質をさらに深めていただきたい。特に、農業体験や特産物である炭を利用する民間企業と生産者の交流等、交流の深化に繋がる取組を今後も発展させていただきたい。

また、本システムに関し、生産者や地元住民への理解醸成や課題の共有について、保全計画上に位置付けることが重要ではないか。このため、後継者育成についての効果が測定され、また生産者自身がシステムについて考え、行動できるような仕組みとすることも検討してはどうか。

- 5 梅は、これからの時代において、重要な健康食品であり、地域の高齢者が生涯現役で梅栽培やシステムの保全に参画する等、高齢化社会にどのように適応していくか、或いは輸出の増加や付加価値向上等の新しい取組を行うことで、どのように消費の減少に対応していくかなど、量から質への転換の観点から、さらなる検討を行うと良いのではないか。

(以上)